



はばたき



No.127

2014. October

特集

- 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択
静岡の「健康長寿」と「未来」を支えるために今、本学が成すべきことは

News & Topics

- 本庶佑理事長「唐奨」を受賞
- オープンキャンパス2014開催

連載

研究室訪問

- 国際関係学部 伊豆見元 教授

活躍する卒業生

- 看護学部/看護学研究科

産学連携

- 牧之原市との包括連携協定を締結

図書館だより

- シリーズ 私の一冊の本



文部科学省 平成26年度地(知)の拠点整備事業に採択される

文部科学省の平成26年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community事業)」に本学のプログラム『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』が採択されました。大学COC事業は、自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援するもので、静岡県では本学が唯一の採択となりました。



2014年8月 静岡県庁での記者会見
(左から)中嶋学長補佐兼産学連携室長、木苗学長、原田事務局長

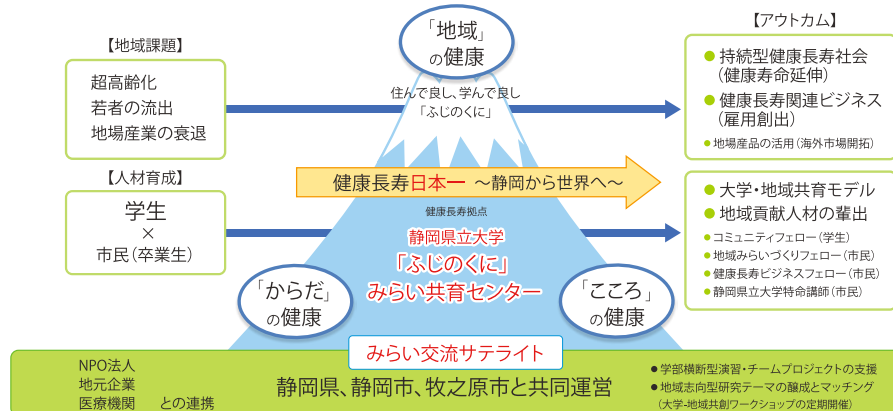
■「ふじのくに健康長寿拠点」の形成

静岡県は、高齢化が急速に進んでおり、若者の県外流出、地域産業の衰退といった地域課題を抱える一方で、「健康長寿」全国1位という強みを持っています。本学はこれまで静岡県の最高学府として、文部科学省の21世紀COE(Center of Excellence:国際的学術拠点)やグローバルCOEプログラム等の事業を通して、薬学と食品栄養科学を融合した新たな学問領域「健康長寿科学」の体系化を進めるとともに、健康長寿に関する研究拠点を形成してきました。

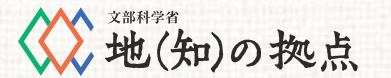
今回採択された事業では、人間一人ひとりの「からだ」と「こころ」に重点が置かれていた従来の健康の概念に、「地域」の健康を組み入れ、理系と文系の5学部が融合して「健康長寿文化」を創成することを目的としています。本学は「地域の知の拠点」であることを最優先に、次世代を担う学生とともに、「ふじのくに健康長寿拠点」づくりに積極的に取り組みます。

■『「ふじのくに」みらい共育センター』と『みらい交流サテライト』の開設

今回の事業では、静岡県、静岡市、牧之原市と連携し、地域ぐるみで課題に取り組むため、学内に地域と大学の橋渡しを担う事業統括機関「みらい共育センター」を新設し、連携する静岡市と牧之原市には、自治体との共同運営で「みらい交流サテライト」を設置します。学生は「しずおか学」科目群を通して静岡の歴史、文化、産業等を学び、フィールドワークを行います。サテライトでは、ワークショップを定期的に開催するなど、学生と地域住民が協働して、健康づくりとともに地域のみらいづくりを行う拠点を形成します。



静岡の「健康長寿」と「未来」を支えるために今、本学が成すべきことは



■ コミュニティ・ワーク力を備えた人材の育成

地域志向の取り組みの中核は、地域と一緒にやって行く次世代を担う若者の育成です。地域の課題を解決するために、世代・分野・職種を超えて“チームとしての活動”を牽引する「コミュニティ・ワーク力」を持った人材を育成します。



本学では今年度から、地域と連携して静岡の特性と魅力を学び、地域の発展に貢献する「しずおか学」の授業科目群を全学共通科目に設けており、来年度からは「静岡の歴史と文化」「静岡の防災と医療」「富士山学」「しずおか健康長寿食文化論」などの同科目群の授業を選択必修科目とします。さらに、「みらい交流サテライト」では、多職種と連携する演習を受講し、インターンシップやボランティア活動を行い、チーム形成能力を養成します。これらの活動を通して、学生には「コミュニティ・フェロー」の称号を授与します。卒業後は、地域の住民とともに、地域活性化・健康長寿文化の実現を牽引していきます。

また、社会人や卒業生には、学び直し教育(リカレント教育)の場として「しずおか学びなおし塾」を企画し、地域の課題解決に向けた実践的な議論の場を提供します。研修修了者には「県立大特命講師」の称号を付与し、コミュニティ・ワーク力を備えた人材として、各地域で行う研修や講習の講師として派遣します。

本事業は平成30年度までの5年間にわたっており、大学と地域が「共育」することで、次世代を担う優れた地域貢献人材を多数輩出します。そのために本学は「地域の知の拠点」となり、各地域と共に静岡県の健康と未来づくりに総力を挙げて取り組んでいきます。

学長メッセージ — 大学COC事業採択に寄せて

学長 木苗 直秀



この度、文部科学省が公募した「地(知)の拠点整備事業:大学COC事業」に採択されたことを大変喜んでおります。これから学生と教職員が一体となり、さらに市民、県民とともに静岡県をはじめ各地域の歴史や文化、産業等を学び、フィールドワークを通して次世代の社会づくりに貢献できる人材育成を目指していきます。

本県は高齢化が急速に進んでいること、若者の県外流出が多いこと、地場産業の衰退が社会問題となっていますが、本学と地域が一緒になって考え行動し、からだの健康、こころの健康、地域の健康を目指し、真の持続型健康長寿社会の実現に向けて積極的に協働していきたいと考えています。皆様の御協力を宜しくお願い致します。

本庶佑理事長が東洋のノーベル賞「唐獎」を受賞



分子免疫学の専門家である本庶 佑 理事長（京都大学客員教授）が、台湾の起業家が「東洋のノーベル賞」を目指して創設した「唐獎（2014 Tang Prize）」のバイオ医学部門の記念すべき第1回受賞者に選ばれました。この度

の受賞は、米テキサス大の研究者との共同受賞で、それぞれ、PD-1とCTLA4の抗体を用いてがん免疫療法を発見し有効な抗がん剤の開発につながったことが評価されました。

私たちの体は、細菌やウイルスなどの異物（抗原）が体内へ侵入したことを察知し、生体を防御する免疫応答により正常に機能しています。この免疫応答の要となるのがT細胞で、働きが弱いと異物が侵入し、逆に働きが過剰になると正常細胞をも攻撃してしまう自己免疫疾患を引き起こします。

本庶理事長は1992年、PD-1分子を発見し、PD-1の生理活性が免疫細胞の抗原特異的な制御であることを明らかにしました。

本庶理事長はこのような基礎的な発見に基づき、PD-1による免疫系の抑制作用を解除することによってがんに対する免疫系を活性化し、がん治療に活用できないかと考え、モデルマウスを用いた実験を行いました。2002年、抗体を用いてPD-1による免疫抑制作用を阻害することにより、免疫反応を活性化させ広範な種類のがんに対する増殖と転移抑制をもたらす免疫療法が可能であるという原理を発見しました。この原理に基づきPD-1抗体による各種がんへの治療が開始され、2014年7月4日悪性黒色腫（メラノーマ）に対してPD-1抗体が薬品として承認されました。

受賞題目

「The discoveries of CTLA-4 and PD-1 as immune inhibitory molecules that led to their applications in cancer immunotherapy」

略歴

1942年（昭和17年）京都市生まれ
京都大学大学院医学研究科修了
同大学院医学研究科長・医学部長、内閣府総合科学技術会議議員等を歴任
2012年4月より本学理事長に就任。京都大学大学院医学研究科免疫ゲノム医学講座の客員教授を務める。免疫抑制分子PD-1を約20年前に発見し、分子の特性を解明した上で、その働きを抑える新たながん治療の研究を続けている。

〈学位〉医学博士（1975年・京都大学）

〈著書〉「いのちとは何か 幸福・ゲノム・病」（岩波書店）

〈主な受賞等〉2012年 ロベルト・コッホ賞受賞

2013年 文化勲章受章

オープンキャンパス2014開催

平成26年8月5日から8日と、11日の5日間、オープンキャンパス2014を開催しました。今年も高校生や保護者など、約4,000名の参加者で賑わいました。学部・学生生活の紹介、在学生との懇談会、キャンパスツアー、模擬授業などを通して、本学の魅力が伝わるよう、各学部が趣向を凝らしたプログラムを実施しました。

参加者が学生と直接接することで、大学生活をよりイメージしやすいものとするため、国際関係学部では、社会貢献系サークルによるワークショップを行ったほか、経営情報学部では、施設・ゼミ見学ツアーを学生が企画・運営しました。また、国際関係学部では保護者向け説明会を開催し、保護者の方にも本学の魅力が伝わるようPRしました。

さらに今年度も、オープンキャンパスに参加できない入

学希望者を対象とした夏季大学説明会を8月21日に実施し、約500名の方にご参加いただきました。

オープンキャンパスのアンケートでは、「内容が充実していて良かった」「志願したい気持ちが強くなった」など、たくさんの嬉しいお声をいただくことができました。



大講堂オリエンテーション



施設見学ツアー

静岡県の誕生日“県民の日事業”に参加

明治9年8月21日に今の静岡県が誕生したことにちなんで、県内各地で様々なイベントが催される「県民の日」に、本学では谷田と小鹿の両キャンパスで、大学見学会を開催しました。夏休みを利用して、小中学生と保護者を中心に多くの方々に参加いただきました。

谷田キャンパス 夏休み県大ツアー2014

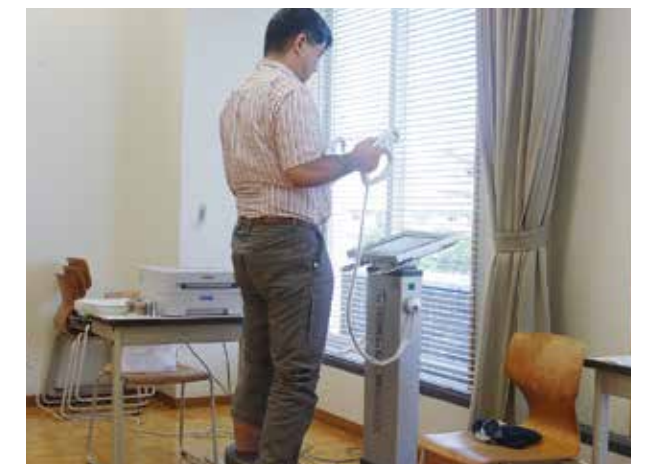
谷田の夏休み県大ツアーには、事前申込いただいた約100名の方が参加しました。講義室や図書館といった学内施設を回りながら、身近な食物を使った模擬実験を行ったり、留学生との交流で海外文化に触れたり、各学部の特色を打ち出した見学プログラムを通して大学の雰囲気を楽しみました。



薬学部の模擬実験「にんじんロケット」

小鹿キャンパス 健康フェア・短期大学部大学見学会

小鹿では、健康フェアと大学見学会を行いました。健康フェアでは、来られた地域の皆さんの身長・体重・血圧だけでなく、体成分分析や骨密度を測定し、自らの健康度をチェックしてもらいました。医師、看護師による健康相談や、小鹿の特色である歯科相談・介護相談を行って地域の健康保持に貢献しました。



健康フェアの健康測定「体成分分析」

体験してみよう! 「薬と健康をつくる科学」 「夏休みファーマカレッジ2014」開催

薬学部では、県内高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ」を、「薬と健康をつくる科学」をテーマに8月7日、8日の2日間にわたって開催しました。この催しは、高校生に、大学の最先端研究に用いられている設備、機器を使って薬学の最新の知識と技術に触れながら、薬学の世界を体験する機会を提供するもので、16回目を迎えた今年は79名の高校生が参加しました。



実験に真剣に取り組む参加者の高校生

高校生たちは、「遺伝子を見てみよう」「解熱鎮痛薬を作ろう」など10の体験テーマに分かれて教員や大学院生の指導の下、白衣に身を包み、機器や器具を実際に操作しながら様々な実験に取り組みました。2日目の報告会では、自分たちが作ったスライドを用いて、頑張った成果を多数の聴衆を前に発表しました。生徒同士で活発な討論が行われ、教員も驚くような鋭い質問が次々と出ました。報告会に参加した木苗学長からは質問者を称え記念品が贈呈されました。

今回の参加者の中から、一人でも多くの生徒が将来薬学の世界に進み、次世代の新薬開発や高度医療を担う人材に成長してくれることを期待しています。



2日目の報告会

食品栄養科学部 2014 キッズ・ラボ ～食塩水を用いた虹づくりに挑戦～

食品栄養科学部では、より多くの子供たちに「科学」に親んでもらえるよう、実験体験ができる科学教室(キッズ・ラボ)をしずおか科学月間の一環として開催しています。4年目となった本年度は、7月26日にディスカバーパーク焼津天文科学館にて「静岡県立大学食品栄養科学部 2014 キッズ・ラボ」と題して開催しました。

当日は、小学3～6年生を中心に40名とその保護者の方に、じゃがいもを使った飽和食塩水と水の見分け方、密度の違う食塩水を用いた虹の作り方など、実験の指導をしました。子供たちは、食塩水を使った虹づくりを成功させるために真剣に話を聞き、最後には出来上がったきれいな虹を誇らしげに見せてくれました。身近な食塩に隠された「科学」を体験することで、「科学っておもしろい」と感じるきっかけづくりの場を提供できました。今後も子供たちが身近な「科学」を体験できる企画をさらに充実させていきたいと考えています。



虹の作り方を学ぶ子供たち



虹づくりに集中する子供たち

HPS養成講座修了生ら 遊育支援ワークショップを開催

平成26年8月9日東京都立小児総合医療センターにおいて短期大学部社会人専門講座ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS:英国で誕生した、病気や障害を持つ子供が、治療や処置で感じる苦痛やストレスを軽減し、遊びを用いて支援する専門職)養成講座を修了した、HPSによる「遊育ワークショップ with SMA(脊髄性筋萎縮症)家族の会」が開催されました。当日は短期大学部社会福祉学科2年の小山麻莉さんも遊びのブースを出展しました。小山さんからは「今回、ブースを企画・出展させていただき、遊びを通して子供たちや保護者の方々の楽しそうな様子や笑顔を見ることができました。また現場で活躍しているHPSの方々からお話を伺うこともでき、HPSという職種の重要性や遊びの持つ役割について改めて認識しました。同時に、HPSと



小山麻莉さん(中央)と紙粘土でのペンダント作りの遊びに参加する子供たち

して働きたいという思いが一層強くなりました。」また、「私自身も入院・手術を経験しており、HPSという職業はこの貴重な経験を生かすことのできる素晴らしい仕事だと思うので、資格取得に向けて今後も頑張っていきたいです」と小山さん自身もワークショップを楽しんだ様子で話してくれました。

サイエンスフェスティバル in る・く・る 2014 に参加

平成26年8月10日に静岡科学館る・く・るで開催された「サイエンスフェスティバル in る・く・る 2014 青少年のための科学の祭典」に、食品栄養科学部の教員18名と学生21名が参加しました。この祭典は、学校関係者や科学

愛好家などが講師を務め、多くの青少年に科学の不思議さや楽しさを実感してもらうことを目的に開催されています。

「身近なたべものやいきもので研究してみよう」のテーマのもと、「ブドウジュースの色はなぜ変わるの?」「キロショウジョウバエのかんさつ」「気体って不思議!」「マイクロワールド!花粉のふしぎ」の4つの展示内容を、子供たちに科学の面白さが伝わるよう丁寧に指導を行いました。

参加した学生にとって、子供たちへの指導を通して、教えることの難しさと学びの大切さを実感し、改めて科学の楽しさを知る機会になりました。



参加した講師陣

災害時における「食の安全」などについて 福島県で調査・研修



福島市東部学校給食センター前にて

食品栄養科学部では、平成26年8月25日から28日に、学生有志(2、3年生21名)と教員(4名)が、東日本大震災や原発事故の被災地である福島県に赴き、「食の安全・栄養管理」に関する学外研修を行いました。この研修は今年で3年目になります。

今回の研修では、福島県農業総合センター(農作物の放射線測定)、福島市東部給食センター(給食の

まるごと放射線測定)、内池醸造株式会社(醤油・味噌製造における震災被害)、福島学院大学(土壌・草木の放射能汚染の変遷)、福島県衛生研究所(加工食品の放射線測定)を訪問しました。また、南相馬市では農家の皆さんと震災について対話させていただきました。さらに周辺の被災状況や復興状況を学ぶことができました。

■参加学生のコメント



食品栄養科学部食品生命科学 2年
学生代表 佐山音緒

震災から3年以上が経った福島の“まち”は、一見すると、普段私たちが生活している静岡の“まち”と何ら変わらないように思えました。しかし、福島市内から山間部、沿岸部や郊外を訪れると、表土などを詰めた黒い袋、がれきの集積場、そして津波の影響を受け一階部分がぼっかりと抜けた民家など、今なお大きな問題と対峙している福島の“まち”がそこにはあり、改めて震災による被害の大きさを痛感しました。



南相馬市の農家の皆さんと震災について対話



内池醸造株式会社(醤油・味噌製造業)にて

研修では、主に福島県産の食品の現状と、会社、研究所、給食センターなどの震災前後の対応などのお話を伺い、また、食品中の放射線量の測定も体験させていただきました。福島から出荷されている食品は科学的に「安全」が証明されているにも拘わらず、我々の食生活において、「安心」を広めることができていないことを寂しく感じ、まだまだ福島県産の食品が風評被害を受けていることを知りました。

今年の11月に開催される「剣祭」では、研修で学んだ内容をポスターにて発表するとともに、福島で栽培された野菜を用いた郷土料理を販売する予定です。福島の現状と食品の安全性について、より多くの人に興味・関心を持っていただけたらと思います。

第24回 星・木苗杯開催!

今回で第24回となる食品栄養科学部恒例のテニス大会「星・木苗杯」が、平成26年7月13日に開催されました。

■参加者の声

実行委員 稲垣 僚、平井 央子、西村 友里
(大学院薬食生命科学総合学府食品栄養科学専攻 博士前期1年)

実行委員当日は雨が降り出し途中で中止を余儀なくされてしまいましたが、参加していただいた皆さんのご協力に大変感謝しています。参加者35人中、男子では食品衛生学研究室の増田修一准教授、女子では臨床栄養管理学研究室の安藤佐紀子さんが優勝し、トロフィーと記念品が授与されました。試合中は皆笑顔に溢れ、とても楽しくプレイしていたので、実行委員一同嬉しく思っています。教員や学生が一堂に会し、交流する場は数少ないので、今後もこのような機会を大切に、人と人とのつながりを深めていきたいと思っています。



(左から)木苗学長、増田准教授、安藤さん

留学体験記

International Student Report

●国際関係学部国際言語文化学科 2年

齋藤 祐里さん

●留学先 ロジャーウィリアムズ大学
(アメリカ ロードアイランド州)

●留学期間 平成26年8月(3週間)



◆アメリカの文化を肌で感じ、 語学力を高めたい

私は、アメリカ文化を学び、日本文化との違いを実際に見て肌で感じたいと思い、ロジャーウィリアムズ大学への語学研修に参加しました。また、自分の英語力を試し、より力を高めたいという思いもありました。日本にいる間は英語を使う機会が授業以外ではあまりないので、留学してリスニング力やスピーキング力を付けようと思いました。

◆フィールドトリップで地域の 文化や歴史を学ぶ授業

授業では、教室で方言や英語の起源などを学ぶだけでなく、フィールドトリップとして近くの町へ赴き、買い物しながらお店の人と会話したり、博物館や美術館で町の歴史を学びました。

◆他国の留学生や地元の人たちとの交流

ブラジルからの留学生が20名ほど来ていて、彼らと一緒に食事をしたり、大学から車で40分程のプロビデンスという町に遊びに行ったりしました。また、自分たちだけでバスに乗ってプリストルという町へ行ったことも印象に残っています。道が分からず困っていたとき、町の人々に助けられました。目的地まで辿り着いたときは、自信と達成感が得られました。勉強だけでなくいろんな人と出会い話せたことが嬉しかったです。

◆研修を終えて、これからの目標

今回のプログラムでは、言語や文化の壁を越えてお互いに理解しあうことの素晴らしさを実感したので、今後も様々な国や地域の人達と積極的に交流を深めたいです。

◆留学を考えている人へ

ロジャーウィリアムズ大学とその近郊の町はとても良いところです。人々はフレンドリーで、英語を学ぶ私達を支えてくれます。先生方も私達が3週間の滞在中に充実して過ごせるようにサポートしてくれました。留学に対して不安がある人もいますが、みんなとても優しく明るい人たちなので心配をしなくても大丈夫です!ぜひ語学研修に参加してみると良いと思います。



学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。

部活・サークルの受賞については
P12の受賞一覧をご覧ください。

看護学部 増田早紀さんがアルティメットU-19日本代表に選出 世界選手権大会にて日本代表 ベスト8の快挙！

大学公認サークルFLYINGDISCサークル「Arcobaleno (アルコバレーノ)」に所属する増田 早紀さん(看護学部2年)が、フライングディスク競技アルティメットの日本代表に選ばれ、7月にイタリア・レッコで行われた「WFDF2014世界ジュニアアルティメット選手権大会」に出場しました。予選から各国の代表



と接戦を繰り広げる中、イスラエル戦では早紀さんが決勝ゴールを決めるなどの活躍もあり、日本代表は決勝リーグに進出し、最終順位 7位タイの好成績を収めました。

アルティメット(Ultimate)とは、各7人からなる2チームが100m×37mのコートでディスクをパスしながら運び、敵陣エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチして得点を競う競技です。



●世界選手権を終えた増田さんのコメント

今年の1月から合同合宿に参加し、5月の代表選考後は2週間に一度合宿をしてチーム力を向上し、世界大会優勝に向けてチームメイト全員でがむしゃらにアルティメットに取り組んできました。

大会では世界の強さを肌で感じ、また、外国の選手とたくさん交流して、楽しくて悔しくて大変良い経験ができました。

私が全力でアルティメットができたのは、家族、友人、サークルの仲間、先生方、協会スタッフの方々など多くの方の支えがあったからです。感謝しても感謝しきれません。ありがとうございます。

世界大会を終えてますますアルティメットの魅力に引き込まれたので、これからは「死ぬ気でやれ！死なないから！」をモットーにがんばります。Arcobalenoのチームとしては、予選リーグ上位突破を目指します。これからも応援よろしくお願いします！



つながるくさなぎ夏フェス&草薙マルシェ



7月27日、静岡市清水区の草薙商店街周辺の活性化を目的とした夏祭り「つながるくさなぎ夏フェス&草薙マルシェ」が草薙駅前通りで開かれました。商店会や自治会、静岡市が協力し、本学の学生も地域の方々とともに企画や運営に携わりました。

地域コラボプロジェクト代表 西 美有紀(経営情報学部3年)

今回のイベントは、たくさんの方のご協力により成功をおさめることができました。企画運営には行政、自治会、商店会、子ども会…他にも草薙で活動している様々な主体が関わっていたのですが、私たち学生もその一員として関わらせていただきました。私はイベントの広報担当、ガーランドという旗による会場の装飾、有度地区連合子ども会と地域コラボプロジェクトの共同出店を行ったのですが、その中でまた新たに草薙地域の人々と出会い、連携していくことで信頼関係を築けたことがとても嬉しいです。

準備は大変でしたが、18年ぶりに復活した歩行者天国で草薙が賑わう様子に、草薙地域の大きな可能性を感じました。再開発も始まり、いろいろと変わっていく草薙ですが、私たち地域コラボ

プロジェクトは学生と地域の人々が関わり合う文化をつくり、お互いにとって魅力的な草薙を実現したいと思います。



子供たちの心に残る食育を！ 「夏の元気と笑顔を作る！！もりもり野菜を食べるコツ！！」を大人気レストランで開催

8月20日に、清水区のエスパルスドリームプラザにあるBellje35というバイキングレストランにおいて食育イベント「夏の元気と笑顔を作る！！もりもり野菜を食べるコツ！！」を企画・開催しました。食品栄養科学部の2～4年生と、英和学院大学の卒業生が、店舗のスタッフと協力し、当日は小学生と、保護者の方々約40名が参加しました。

森山 早咲(食品栄養科学部3年)

大学で学んだ知識・技術を生かし、子どもの「夏の日記に書いてくれるような楽しかった思い出」として、記憶に残るイベントを自らの手で作り出してみようと考えたのがこの食育イベントを企画したきっかけです。管理栄養士を目指す学生スタッフが中心となり、協力して下さる店舗の方とも相談して決めた題材は「野菜をテーマにし、どんな野菜をどのくらい食べたらよいのか、おいしく野菜を食べるにはどうしたらよいのか」を学ぶことでした。

昨年開催した同様のイベントでは、スタッフの一員として参加しましたが、今回は代表を務めることとなり、大きな不安がありました。しかし、参加した子どもたちから「こんなにいっぱい野菜が食べられたよ！」と嬉しそうなお声や、保護者の方から「次も参加したい！今度はいつありますか？」といったコメントをいただき、なにより、参加者の方の楽しそうな笑顔を見て、今までにないほどの達成感・充実感がありました。イベントを大成功さ

せることができたのは、協力してくれた店舗の方や、積極的にアイデアを出し合える学生スタッフがいてくれたからです。本当にありがとうございました。来年は今年の経験を後輩に伝えつつ、より良い企画に取り組みたいと思います。



みんな野菜をお腹いっぱい食べて、元気いっぱい！

受賞一覧

*各受賞の詳細については本学公式サイト内のニュース&トピックスからご覧いただけます。

教員

食品栄養科学部環境生命科学科
坂田 昌弘 教授

◆第23回環境化学学術賞



受賞テーマ：アジア大陸からの重金属の越境輸送とその湿性・乾性沈着に関する研究

2014年5月

薬学部
井之上 浩一 講師

◆第16回(平成26年度)日本食品化学学会 奨励賞



受賞テーマ：LC/MSを基盤とする天然添加物および含有成分の食品分析技術に関する研究

2014年5月

薬学部
並木 徳之 教授

◆日本薬学会 第29年会 称号
「製剤の達人: The Master of Pharmaceutical Technology」



2014年5月

薬学部
浅井 知浩 准教授

◆2014年度日本薬学会 奨励賞

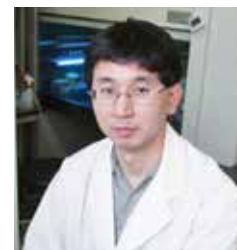


受賞テーマ：リボソームを用いた核酸デリバリーシステムに関する研究

2014年5月

薬学部
高橋 忠伸 講師

◆日本糖質学会 平成26年度奨励賞



受賞テーマ：呼吸器ウイルス感染におけるウイルス糖タンパク質および糖鎖の役割解明

2014年7月

学生

薬食生命科学総合学府
博士課程 2年

福田 達也 さん

◆6th International Liposome Society (ILS) International Conference Best Poster Presentation Prize



受賞演題：Liposomal drug delivery system for the treatment of ischemic stroke before restoration of cerebral blood flow

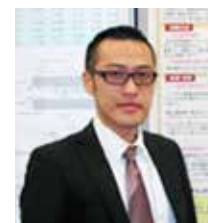
(脳虚血性疾患に対するリボソーム製剤の有効性について)

2013年12月

薬食生命科学総合学府
博士後期課程 1年

王 齊 さん

◆第23回環境化学討論会 実行委員会特別賞



発表演題：実験炉と実施データ比較によるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析

2014年5月

学生

薬食生命科学総合学府
博士前期課程 1年

船本 雅文 さん

◆第14回日本抗加齢医学会総会 Young Investigator Award



発表演題：心筋細胞肥大におけるヒストンアセチル化酵素p300によるエピジェネティックな制御機構

2014年6月

薬食生命科学総合学府
博士前期課程 2年

石井 裕大 さん

◆第12回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム2014 (PPF2014) 若手研究者奨励賞



発表演題：キラル化合物の新規分離デバイスDress-up キラルカラムのカルボン酸分離への応用

2014年7月

薬食生命科学総合学府 博士前期課程 1年

高山 卓大 さん

◆第27回バイオメディカル分析科学シンポジウム(BMAS2014) 研究奨励賞(星野賞)

発表演題：光学活性誘導体化試薬 DMT-3(S)-Apyを用いた唾液中カルボン酸メタボロミクスのLC-ESI-MS/MS分析

2014年8月



クラブ・サークル

ボランティアサークルこじか (短期大学部)

◆厚生労働大臣感謝状



受賞内容：東日本大震災における被災者の支援活動等

2014年5月

陸上部

◆第15回富士地区陸上競技大会 入賞



▼一般男子 100メートル
5位:12秒12 松本昌浩(食品栄養科学部1年)
6位:12秒15 前川裕哉(経営情報学部1年)

▼一般男子 200メートル
2位:24秒41 前川裕哉
4位:24秒78 松本昌浩

▼一般女子 100メートル
1位:13秒49 久保結香(看護学部3年)

▼一般男子 走幅跳
1位:5m89 鈴鹿由騎(国際関係学部1年)
5位:4m61 松本昌浩

2014年5月

◆第54回沼津市陸上競技選手権大会 入賞

▼一般男子 4×100メートルリレー
3位:44秒69 松本昌浩、永田淳也(経営情報学部1年)
大野真澄(食品栄養科学部4年)
深澤斗希也(食品栄養科学部3年)

▼一般女子 100メートル
1位:12秒69(大会新記録) 渡辺優衣(食品栄養科学部2年)
3位:13秒63 石津英里子(食品栄養科学部2年)

▼一般女子 800メートル
1位:2分30秒58 寺阪祐紀(薬学部1年)

2014年6月

卓球部

◆第54回全国国公立大学卓球大会



▼女子シングルス
3位:梅村晃子(薬学部4年)

▼女子ダブルス
ベスト16位:梅村晃子、吉野友規(国際関係学部1年)

2014年8月

記念すべき第一期生。先輩がいない中、自ら積極的に学びました。



お名前 佐藤 美穂さん
卒業学部 看護学部看護学科 (2001年3月卒業)
勤務先 独立行政法人 地域医療機能推進機構 桜ヶ丘病院

Q1. どんなお仕事をされていますか?

看護師として臨床経験を積み、現在は病院施設に付属した健康管理センターで保健師として働いています。保健師は受診者に対して、癌や生活習慣病などの早期発見や生活習慣の

改善、さらなる健康増進を促していくことが大きな役割です。受診者の方と関わる中で、生活習慣の改善に関心を持ってもらえた、治療の必要性に気づいてもらえた、指導内容に納得してもらえた、など相手の心や行動に変化がみられたとき、指導に関われて良かったと感じます。

Q2. 学生時代を振り返って思い出に残っていることはありますか?

私達の学年は第1期生で先輩という存在がいなかったため、色々大変なこともありました。しかし前例がない分、自分で創意工夫して積極的に学んでいくという姿勢が身に付いたと思います。学生の頃に得られた学習意欲や探究心、創造力は今の仕事でも役に立っていると思います。

Q3. 静岡県立大学に入学して良かったと思うことはありますか?

在学中は、実習など少人数での活動以外にも、学部の交流会を企画したり、教職員にも気さくに悩みなどを相談できる、アットホームな雰囲気のもとで学習することができました。その頃出会えた恩師や友人には卒業した今でも良い刺激をもらったり、情報交換や連絡を取り合うことができている。また、縁あって今も母校の近くに

勤務しており、度々大学を訪れる機会がありますが、「県大の卒業生」ということで温かく受け入れてもらえることがとても嬉しいです。

Q4. 今後の目標について教えてください。

後輩やスタッフと協力しながら、やりがいのある楽しい職場づくりを目指していますが、保健師としての経験年数は3年目で、知識も指導力もまだまだ勉強不足なのを痛感しています。やりたいこと、やらなければならない課題は山積みですが、常に今の自分に何ができるかを問いながら、ひとつずつステップアップしていきたいと考えています。

Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

学生の頃、バイトしたこと、遊んだこと、就職先での経験、結婚、出産、育児など、どの経験も今の仕事で役に立っています。学生の頃は勉強でも遊びでも、とにかく思いっきり取り組んでみてください。精一杯、真剣に取り組んだ経験は自分の大切な引き出しとなり、必ず役立つものになると思います。

■牧之原市との包括連携協定を締結



平成 26 年 5 月 19 日に牧之原市と本学の包括連携協定締結式を行いました。今回の協定は、本学と牧之原市が、地域コミュニティ再生事業に国際関係学部の津富宏教授とゼミ学生が関わってきたこと、県が進めるフーズ・サイエンスヒルズプロジェクトに平成 26 年度から牧之原市が加入したことなどから、教育・研究活動の推進のための協力関係をより一層進展させるものです。

締結式では、西原茂樹牧之原市長と木苗学長が協定書に署名し、地域貢献を行うためのフィールド、学生教育の場としてのフィールドの提供や、津波・放射能等に対する防災対策での協力関係などの面で相互連携を図っていくことを確認しました。包括連携協定締結後には、木苗学長が牧之原市議会議員に、本学の研究紹介や今回の協定のねらいなどの講演を行いました。

本学と県内自治体との包括連携協定は、平成 24 年 11 月の静岡市との締結に続き、2例目となります。



■フーズサイエンスセミナー in 静岡への出展

平成 26 年 5 月 27 日に、マリナート清水で開催された『フーズサイエンスセミナー in 静岡』への出展を行いました。このイベントは、静岡県、静岡市、焼津市、藤枝市、島田市、牧之原市及び静岡県産業振興財団によるもので、食品関連産業の振興と集積を目指す「フーズ・サイエンスヒルズ (FSH) プロジェクト」の一環によるものです。

セミナーでは、FSH プロジェクトの概要や実施事業の事例発表をはじめ、マーケティング専門家による講演や、本学の木苗学長（フーズ・サイエンスセンター長）による、FSH プロジェクト戦略計画及び実施事業についての講演も行われました。ポスターセッションでは本学における新センターの紹介や研究紹介を行い、多くの方に本学の研究について知っていただく機会となりました。



■安全保障輸出管理セミナーの開催

平成 26 年 6 月 19 日に、本学において、『安全保障輸出管理セミナー』を開催しました。静岡大学 専門員（産学連携担当）鈴木健太氏を講師に迎え、海外の大学や企業との共同研究が活発になっている現在、研究者が「貨物」や「技術」を海外に提供する際に注意すべき法規制について講演いただきました。兵器転用の恐れがある研究資材の海外送付のほか、海外からの留学生の受け入れに伴う技術提供でも法律に抵触する事例が紹介され、参加した約 90 名の教職員・学生が熱心に聞き入る様子が見られました。



生命の誕生に立ち会える、やりがいのある仕事です。



お名前 寺田 有里さん
卒業学部 看護学研究科 助産学分野 (2012年3月卒業)
勤務先 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院

Q1. どんなお仕事をされていますか?

産婦人科、小児科、消化器内科の混合病棟で、看護師・助産師として働いています。手術や検査、化学療法を受ける患者さんや、妊娠から産褥期までの女性とその子どもの看護

をしています。私は助産師でもあるので、主に妊婦健診、保健指導、母親学級、分娩介助などに携わっています。生命の誕生というかけがえない瞬間に立ち会い、無事出産を終えたお母さんと赤ちゃんの幸せそうな顔を見た時にこの上ないやりがいを感じます。

Q2. 学生時代の経験で、今のお仕事に影響を与えたことはありますか?

今まで私が受けてきた学習方法は座学が中心でした。大学院では、Problem Based Learning(PBL)という課題解決型授業により、自分で課題を見つけ問題を解決することで、助産学のひとつひとつをとても興味深く学ぶことができました。また、PBLによる学習では課題が多く、毎日があっという間に過ぎていく日々でした。そんな生活の中で、学習方法を見直すことができただけではなく、時間の使い方が入学前よりうまくなり、それらは今の仕事の中でも役立っていると思います。

Q3. 静岡県立大学に入学して良かったと思うことはありますか?

助産師経験が豊富な先生方から多くのことを学ぶことができたこと、助産に必要な知識だけで

はなく、国内外の動向についても視野を広げることができたことです。また、助産分野1期生であり、他領域の先生方からも励ましの声をかけていただき温かく見守っていただいたことも、県大に入学して良かったと思います。

Q4. 今後の目標について教えてください。

多くの合併症を伴うハイリスクの妊産褥婦さんが増え、高度な医療が求められています。今後は多くの経験を積み、ハイリスクの妊産褥婦さんのケアができるよう日々学習し、助産師としての能力を高めていきたいと思っています。

Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

2 年間で助産学を学びながら修士論文を作成するというとてもハードな 2 年でしたが、今振り返るととても充実した楽しい大学院生活でした。学生生活では多くのことを学び経験してほしいと思います。助産師という仕事は大変な仕事ではありますが、とてもやりがいのある仕事です。みなさんも助産師にぜひなってみませんか?



メディアに映るときはまた違う柔らかな表情で、学生と雑談や議論を交わす伊豆見教授とゼミ生

国際関係学部 伊豆見研究室

いずみ ほんめ
伊豆見 元 教授

(国際関係論、北東アジアの安全保障、朝鮮半島の政治外交)

■所属学生:学部生5名、大学院生1名

■朝鮮半島と日本、そして世界が大きく動いた時代

北朝鮮に関するニュース解説で度々メディアに登場する伊豆見教授が北朝鮮の研究を始めたのは1982年頃。「朝鮮戦争を巡るアメリカ、ソ連、中国の大国関係の研究から、舞台である朝鮮半島に徐々に焦点が移っていきました。言語も一から勉強することになりました」。今のように大学で韓国語を学べる環境はなく、大使館の語学講座で学び、2年程韓国へ留学。海外留学を経験して韓国から見る視点を持つようになったと伊豆見教授は当時を振り返ります。「韓国から見る日本の存在は大きく見えました」。

当時はこんなに多くの日本人が韓国語を学ぶようになるとは予想もしなかった。30年余りの間に様変わりしたものです」。

1980年代、朝鮮半島だけでなく、目まぐるしく移り変わる国際情勢の中で、国際社会で活躍する人材の育成が求められていました。本学は1987年に国公立大学として初の国際関係学部を開設。伊豆見先生は開学と同時に助教授として着任することになりました。

■学生を刺激する環境づくり

開学以来、静岡で教鞭を執ってきた伊豆見教授は、本学の学生について「これまで教えてきた他大学の学生と相対的に見て、とても真面目」と話します。「ただ、地方大学は外からの刺激や情報はどうしても少なくなる。そのため、これまで平均して年に2回程、学外から講師を招聘し特別講義を行うなどして地方のハンデを補ってきました。学生には、とにかく多くの刺激を受けたいと思っています」。

また、通常ゼミが隔週のところを毎週行うのもこだわり。教授が不在のときでも学生たちだけで行います。ゼミでは、最近の時事に関する新聞記事等をもとにディスカッションを行うほか、3年生が参考文献のレポート発表、4年生は個々の研究テーマに分かれ、後期からは卒業論文に向けての準備が行われます。現代の朝鮮半島に拘らず、北東アジアの文化や歴史などを広く自由

に研究していて、語学学習も韓国語の履修は必須としていません。「自由な発言を尊重しています。考えはまとめるよりも広げさせて、議論して頭が混乱するくらいが丁度良い。社会に出たとき、“ゼミが一番勉強したな”と思い出してくれたら良いです」。そうした考えから、休暇中の課題は学生が多少辛いと思うくらい量が課されます。「日本語4万字、英語2万字のレポートが課されたときは、ゼミ生で遊びに行ったディズニーランドに課題書籍を持って行きました」と、苦労したはずのエピソードを学生たちは笑いながら振り返っていました。

所属する学生の進路が、地方公務員や地元の企業、マスコミ、大学院進学等多岐にわたる伊豆見ゼミ。このゼミだからこそ得た刺激と、積み重ねた知識を糧に、各分野で活躍する人材が輩出されています。

学生の声

“新鮮な情報を 研究に生かせる環境です”

④ 4年 田村 亜唯さん



朝鮮半島の研究は、日々時事ニュースも多く、タイムリーな情報を得られる点が、研究を進める上で良いと思います。実は他のゼミを志望していたこともありましたが、結果として伊豆見ゼミに入って良かったと感じています。私の研究主題は、日韓から見た女性の社会進出についてですが、著名な伊豆見先生はとて広い人脈をお持ちで、私の研究主題に沿った研究者の方々を紹介して下さるので参考になる情報をたくさんいただいています。今年の後期からは英語圏へ半年間語学留学する予定なので、今はその準備中です。

“自由に発言できる 空気がゼミの魅力”

⑤ 3年 萩野 翔子さん



朝鮮半島のことが学べるゼミに入りたいと考えていて、文化より政治関係に興味があったので、伊豆見ゼミを志望しました。もともと少人数のゼミの上、今年は3年生が私だけなので、ゼミに入ったときは環境に驚きましたが、必然的にゼミの時間の発言も増えますし、毎週の発表の準備をきちんとしなければいけない分、緊張感を持って勉強できるので、良い刺激となっています。先輩も伊豆見先生もとても優しく、自由に発言できる空気がこのゼミの魅力だと感じています。

2014秋 大学祭開催のお知らせ

今年も、静岡県立大学「剣祭」と短期大学部「橘花祭」が11月に開催されます。学生が趣向を凝らした楽しい企画が盛りだくさん。模擬店も多数出店します。子供から大人まで楽しんでいただける内容となっていますので、大学祭へぜひお越しください。

第28回 剣祭

■日時 **11月1日(土)・2日(日)** ■会場 **静岡県立大学 (谷田キャンパス:静岡市駿河区谷田52-1)**

今年のゲストライブは、chayさんと住岡梨奈さんによるアコースティックコンサート。カラオケコンテスト、各クラブ・サークルのステージパフォーマンスや展示も必見です。毎年、長蛇の列が並ぶ人気のお化け屋敷も登場します。

また、本学の教員による模擬授業や、薬学部・食品栄養科学部の研究室が解放され、大学の教育にも触れていただけます。

剣祭実行委員会
TEL 054-264-5075 E-mail tsurugi@u-shizuoka-ken.ac.jp
WEB <http://tsurugi-web.jp/tsurugi28th/> (剣祭特設サイト)



第18回 橘花祭

■日時 **11月8日(土)・9日(日)** ■会場 **静岡県立大学短期大学部 (小鹿キャンパス:静岡市駿河区小鹿2-2-1)**

今年のテーマは「環(わ)」。手作りの大学祭を開催します。アイドルコンテストやカラオケ大会、ダンスなどでステージを盛り上げます。

また、講義室や実習室を利用して、各学科の特性を生かした学科展示を行います。その他、模擬店や入試相談会も開催しますので、小鹿キャンパスの雰囲気味わってください。

短期大学部橘花祭実行委員会(お問い合わせは学生室まで)
TEL 054-202-2610 E-mail sizstu@u-shizuoka-ken.ac.jp
WEB <http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/> (短期大学部公式サイト)



教員人事

◆採用 平成26年8月1日付

世戸 孝樹	薬学部	助教
砂川 陽一	薬学部	助教
恒松 雄太	薬学部	助教

平成26年9月1日付

柏倉 康治	薬学部	講師
-------	-----	----

平成26年10月1日付

石川 義道	国際関係学部	講師
山崎 真理子	経営情報学部	講師
川原田 茜	経営情報学部	助教

◆昇任 平成26年8月1日付

伊藤 由彦	薬学部	講師
-------	-----	----

平成26年9月1日付

黒羽子 孝太	薬学部	講師
--------	-----	----

平成26年10月1日付

森 勇治	経営情報学部	准教授
------	--------	-----

◆退職 平成26年7月31日付

佐藤 道大	薬学部	特任助教
恒松 雄太	薬学部	特任助教

平成26年9月30日付

関本 征史	薬学部	講師
伊藤 一頼	国際関係学部	准教授

◆名誉教授 平成26年4月1日付

出川 雅邦	薬学部教授・評議員・副学長・学生部長
山田 静雄	薬学部教授・副学長
小浜 裕久	国際関係学部教授・評議員・大学院国際研究学研究所長
原田 茂治	短期大学部教授・評議員・短大部附属図書館長
藤原 愛子	短期大学部教授・短大部学生部長

奨学金授与式が行われました

平成26年3月から8月までの間に奨学金授与式が執り行われました。今年度は、地域の地元企業10社から計27名の学生が奨学金をいただきました。本学では、有意義な学生生活を支援していくために、地元企業等の奨学団体の協力による各種奨学金制度を設けています。

本年度の奨学生の皆さんのこれからの活躍を期待しています。

TOKAI グループ奨学金

授与式：6月12日

- 経営情報学部3年 奥山 果歩
- 経営情報学部3年 東條 有加里
- 国際関係学部2年 鈴木 侑香
- 国際関係学研究科1年 陳 書研
- 食品栄養科学部4年 蘇 召軒



静岡ガス奨学生

認定証授与式：7月28日

- 薬学部4年 福地 壮吾
- 国際関係学部4年 吉田 直人



万城食品奨学金

授与式：5月20日

- 国際関係学部2年 韓 佳和



静岡信用金庫奨学生

授与式：6月26日

- 経営情報学部2年 加藤 陸矢
- 看護学部2年 山下 涼夏



東海澱粉国際交流奨学基金

授与式：7月24日

- 薬食生命科学総合学府2年 呉 婷婷
- 薬食生命科学総合学府2年 TRAN VAN MAI
- 国際関係学研究科2年 陸 美燕



天野回漕店奨学金

授与式：7月25日

- 国際関係学部3年 TAN QIWEI
- 国際関係学部2年 HUYNH SO VAN



しずぎんアジア留学生奨学金

授与式：3月14日

- 国際関係学部4年 YAN LYNN NAING
- 経営情報学部3年 NGUYEN THI XUAN TRANG



ロッキー奨学基金

授与式：7月23日

- 薬学部5年 播摩 沙希
- 国際関係学部4年 遠藤 希
- 看護学部2年 山下 涼夏



スイチ奨学金

授与式：6月23日

- 薬学部3年 程 相涛 他1名



エンケイ財団奨学金

授与式：8月8日

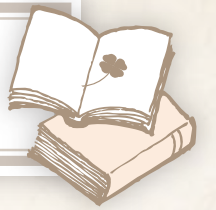
- 看護研究科1年 綿引 茜
- 薬学部3年 渡邊 美笛
- 食品栄養科学部3年 PHAM THI HOANG LINH CHERRY AYE THAPYAY TUN
- 国際関係学部2年
- 国際関係学部3年



地元企業等による本学学生への奨学金一覧

名称	給付金額	支給期間	応募資格	26年度採用人数
(株) TOKAI ホールディングス	月額5万円	1年間	全学生(研究生、科目等履修生含む)	日本人3人 留学生2人
静岡ガス(株)	月額5万円	1年間	学部生・大学院生	2人
(株) 万城食品	月額5万円	1年間	中国からの留学生	1人
静岡信用金庫	月額5万円	1年間	静岡県内出身の学部生	2人
公益信託東海澱粉国際交流奨学金	月額3万円	1年間	アジアからの留学生のうち修士大学院生	3人
(株) 天野回漕店	月額5万円	1年間	中国・東南アジアからの留学生のうち学部2~3年生	2人
スルガ奨学財団	月額5万円	2年間(3,4年次)	外国人留学生のうち学部2年生	1人 (平成25年度実績)
清水ロータリークラブ	4万円	一時金	外国人留学生のうち、他の奨学金を受給していない学部新入生	8人 (平成25年度実績)
株式会社静岡銀行	月額10万円	2年間	アジア地域からの国籍を有する留学生	2人
静岡県労働者福祉協議会(ロッキー奨学基金)	年額20万円	一時金	静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で2年生以上の者	3人
スイチ奨学金	月額5万円	1年間	学部2年生以上で授業料減免を受けている者	2人
エンケイ財団奨学金	月額2万円	1年間	学部生・大学院生・アセアン諸国からの留学生	5人

図書館だより



シリーズ 私の一冊の本

薬学部准教授 齊藤 真也

紹介図書

『ライト、ついてますか：問題発見の人間学』

著者名:ドナルド・C・ゴース, ジェラルド・M・ワインバーグ
● 出版社:共立出版 ● 請求記号:141.5 / G 27
● ISBN:4-320-02368-4



大学での勉強と高校までのその違いを説明するのに、「高校までは正解のある問題を解いていたのに対して、大学では正解がわからない問題に取り組んでいる」、というような表現を聞いたことはないでしょうか。大学入学までは正解へ素早く到達する訓練を積み重ねてきたのに対して、大学を卒業するまでの勉強は、解けるかどうかかわからない問題に取り組み、それを解く(あるいは解くための努力をする)ことに重点が置かれています。

では解けない問題が解けるようになる、というのは高等教育の目標なのでしょう。実際にはこれだけでは片手落ちで、最終的には適切な問題を設定する能力を身に付けることが目標でしょう。問題を設定し、それから解けるかどうかかわからないこの問題を解決する。そのトレーニングを私たちは大学から大学院の過程で行っているのです。

そこで『ライト、ついてますか』という本の登場ですが、この本は副題に『問題発見の人間学』と書かれているように、いくつかの(必ずしも正解のない)問題を例に、適切な問題とは何かを読者が考えていく構成になっています。問題がそこにあれば何を解くかは明白だと思いがちですが、実際には問題一つにも様々な面があり、「誰にとって」「何を目的として」「何を解決すべきなのか」という点は必ずしも明確ではないことをこの本は読者に教えてくれます。適切な問題というのは、多角的に検討して初めて導き出せるようになるわけですが、この「多角的な視点」がどのようなものであるかを認識する、という点も本書の隠されたテーマです。例題は少し奇をてらっているし、解決できない問題もあり、却って問題点が分かりにくくなっているところもありますが、自分の視野を広げるにはよいきっかけになるのではないのでしょうか。

ちなみに本書にいくつも挙げられる教訓の一つに「キミの問題理解をおじゃんにする原因を三つ考えられないうちは、キミはまだ問題を把握していない」というものがあります。これは多角的に自分がその問題を把握しているかどうかを知る指標なのですが、もし三つ以上考える事を習慣にしていれば、論文発表時の意地悪な質問への対応などは赤子の手をひねるようなものでしょう。

「我々はどんな時代に生きているのか」を問い続ける 一県大附属図書館「岡村昭彦文庫」一

岡村昭彦氏(1929-85)は、静岡県舞阪町(現浜松市西区舞阪町)を活動拠点とした、フォトジャーナリストであり、ベトナム戦争報道を皮切りに、バイオエシックス、ホスピス、精神病棟、環境問題など「戦争といのち」をめぐる現代的課題に深いメスを入れたことで知られています。本学で

は、岡村氏が蒐集した蔵書16,000冊を開学当初に受け入れました。現在、約18,000冊の旧蔵書、インタビュー映像等を図書館1階「岡村文庫」でご覧いただくことができます。

2010年に見つかった岡村氏の未発表フィルムを加え、182点の作品で構成された「岡村昭彦の写真」展が、今夏、東京都写真美術館で2か月にわたり開催され、好評を博しました。

「我々はどんな時代に生きているのか」、「乏しい資料で大きなジャッジをするな」等、岡村氏の遺した数々のメッセージは、岡村氏の写真とともに、著書、雑誌掲載記事、各国の書店や古書店においても精力的に蒐集した旧蔵書等を通して、没後30年近く経つ今も発信され続けています。

教員著作寄贈図書

■ 大島寛史(食品栄養科学部教授)

『Cancer and Inflammation Mechanisms』
大島寛史[ほか]著・Wiley【491.65/C15】

■ 柯隆(グローバル地域センター特任教授)

『習近平政権の言論統制』
美根慶樹編著・蒼蒼社、(執筆第9章)【312.22/Mi41】

■ 立花明彦(短期大学部准教授)

『何かお手伝いしましょうか：目の不自由な人への手助けブック』
立花明彦著・産学社【369.27/Ta13】

■ 津富宏(国際関係学部教授)

『性犯罪からの離脱：「良き人生モデル」がひらく可能性』
D.リチャード・ローズ, トニー・ウォード著・日本評論社、(監訳)【368.6/L44】

卒業袴

静岡県立大学

ご卒業のみなさまへ

卒業式会場：グランシップ
お支度会場：県大内
※着付け・ヘアー・写真撮影

グランシップまで
送迎があります！

県大内展示予約会

県短をご卒業予定の方は、当社
ホームページをご覧ください。

場所：県大内1階食堂内ラウンジ
・H26年10月9日(木) 10日(金) 11時～17時
・H26年11月6日(木) 7日(金) 11時～17時

はばたき割

当広報誌をご予
約時にお持ち頂
いた方に、1000
円割引！他の割
引と併用可！

卒業袴24年の安心のお店

株式会社 京都むらまつ

住所：静岡市葵区馬場町25-2
営業：9時30分～17時(水曜定休・正月休み有)
※土曜・日曜・祝日衣裳豊富！
※16時までにご来店下さい！
電話：054-252-5293(代表) 0120-144081(フリーダイヤル)
ホームページ検索：京都むらまつ



求む旅人。
ドライブのある人生にしよう。
免許をとってつながる、新しい世界。

免許取得をお考えの際には、安心と信頼の静鉄自動車学校にお任せください。

静鉄自動車学校は、平成26年に創立53周年を迎え、卒業生総数は80,000人を超える、静岡県内でも有数の歴史ある自動車学校です。また、初心運転者事故率においても、静岡県内でトップクラスの低さを誇っています。



免許取るなら静鉄へ！



公認 静鉄自動車学校

安心と信頼の静鉄グループ

静岡市清水区馬走北5-1(イオン清水店さん隣り)

0120-450-335

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。